



ニホンジカの情報意見交換会

全国各地で個体数を増加させているニホンジカは、農林業に大きな被害を及ぼすだけでなく、森林生態系にも深刻な影響を及ぼしています。近年、白神山地世界遺産地域周辺においても目撃情報が徐々に増えており、生息エリアの拡大が懸念されていることから、6月12日（月）、環境省、青森県（自然保護課、林政課、食の安全・安心推進課）、関係町村（鰺ヶ沢町、深浦町、西目屋村）、弘前大学、東北森林管理局（計画課、津軽森林管理署、津軽白神森林生態系保全センター）の担当者22名が一堂に会して、初めての情報意見交換会を、鰺ヶ沢町役場庁議室において開催しました。

会議開催にあたり、津軽白神森林生態系保全センター所長より、「近年白神山地周辺においてもニホンジカが目撃情報が増えていきます。これから対策や駆除等を進めるため、各機関の連携が必要と考え、初めての意見交換会を企画しました。」との話がありました。

会議では、各機関の取組状況として、センサーカメラによるニホンジカの撮影状況、ニホンジカの管理対策の実施状況、ニホンジカの研究内容などの説明があり、今後の取組の参考になる多くの情報を共有することができました。

続いて、本情報意見交換会の特別メニューとして、高知県梶原町役場の産業振興課道の駅準備室長の山本和正氏から「梶原町におけるニホンジカを取り巻く状況（捕獲鳥獣の利用等）」について御講演をいただきました。梶原町におけるニホンジカの状況、特に捕獲頭数がこの10年間で大幅に増加したことや、その捕獲したニホンジカを地域の産業として活用するために導入した獣肉解体処理施設やジビエカー等についてお話を頂きました。参加者からは、困ったものという認識しかなか



会議の様子



講演の様子

ったニホンジカが、地域の産業として一定の役割を果たしている事例に興味を持つ方が多かったようで、講演後、山本氏に対し、たくさんの質問の挙手が上がりました。捕獲鳥獣利用についての話は、当地域では時期尚早かとの思いもありましたが、参加者の関心の高さに、大変有意義なお話をいただけました。

今回の情報意見交換会は、まさに情報・意見の交換の場であり、具体的な対応等の議論までは至りませんでした。各関係機関の間で問題意識を共有することができたものと考えます。私たち津軽白神森林生態系保全センターは、この情報意見交換会を皮切りに、各機関と連携して今後もニホンジカ対策等を進めて行きたいと思えます。(高木)



質疑応答の様子

特定外来生物「オオハンゴンソウ」の駆除を実施しました



オオハンゴンソウ

6月14日(水)、白神山地遺産地域の周辺地に当たる西目屋村鬼川辺国有林において、特定外来生物「オオハンゴンソウ」の駆除作業を実施しました。

特定外来生物とは法律により「生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす、又は及ぼすおそれのある外来生物の中から、規制・防除の対象」となるもので、環境大臣に指定されたものを指します。このオオハンゴンソウも北米原産で、明治期に観賞用に導入され、野生化したもので、大変な繁殖力があり、在来植物の生態系に大きな影響を及ぼすおそれがあります。

今回、オオハンゴンソウがこの白神山地遺産地域の周辺地域で発見され、白神山地の貴重な森林生態系に重大な影響を及ぼすことが憂慮されましたので、環境省西目屋自然保護官事務所等の協力を仰ぎ、その駆除作業に乗り出しました。

しかし、このオオハンゴンソウは、種子はもちろん、根を残すとそのわずかな根からも繁殖することができます。そこで、種子を付ける前のこの時期に、根から掘り取るというやり方で駆除をすることとなりましたが、この根から掘り取るというのが、なかなかの重労働です。それでも参加者の皆さん、額に大粒の汗を流しながら、黙々とオオハンゴンソウを掘り取っていきました。



根から掘り取ります

オオハンゴンソウは一度侵入を許すと、1回の駆除では根絶は困難で、おそらく数年にわたる息の長い対策が必要となります。そこで作業後は、掘り取ったオオハンゴンソウの本数と大きさを1本ずつ計測し、今後の対策のための基礎データとしました。



作業後、1本ずつ計測



オオハンゴンソウの袋の前で

私たち津軽白神森林生態系保全センターは、今後も白神山地に関係する皆さんと協力をしながら、地道にその貴重な森林生態系を守る活動をしていきます。(赤澤)

そとめやち 五月女范（十三湖）クリーン作戦に参加しました

6月21日（水）は、津軽森林管理署金木支署が実施する五月女范（五所川原市十三湖）の海岸林のクリーン作戦に参加してきました。

五月女范の海岸林は、十三湖の日本海に位置する防風保安林。隣接する人家や農地を日本海から吹き付ける強風や砂から守る上で、重要な役割を果たしていますが、ゴミの不法投棄や日本海からの漂流ゴミ等の散乱が非常に多いことが問題となっています。そこで津軽森林管理署金木支署では、地元自治体や地元住民の方々とともに、毎年清掃活動（クリーン作戦）を実施し、その保安林機能の維持・促進を図っており、私たち津軽白神森林生態系保全センターも微力ながらその協力をしております。

当日は天気には恵まれましたが、同時に日差しもかなり強い。金木支署からこまめに水分補給をするよう注意を受けるとともに、飲料を支給され、作業を開始しました。

作業を始めると海岸のそこかしこに、ゴミがあるのが目に入ってきます。きっとこのゴミを捨てた人は、自分がこれくらいのゴミを捨てたとしても、そんな大きな影響は無いだろう、そう思って捨てたのだと思います。しかし、そういう個々の小さな思いの集合が、この膨大なゴミとなって現れている。拾い上げるゴミに、そんな思いが去来しました。



袋を手にゴミを回収中

作業は午前中、約1時間半のものでした。それでも、参加者の皆さんが汗だくになって作業した結果、金木支署の軽トラックが何度も海岸を巡回して収集しなくてはならないほど、多くのゴミを回収することができました。



荷台、いっぱいのゴミの山



参加者が集まり記念撮影

この日の五月女菴海岸林はほんとうにきれいになりました。これが一時的なものではなく、本日の作業した方々の思いが結実して、今後の不法投棄などの減少に繋がることを願ってやみません。(赤澤)

大きく育てブナ林再生植樹祭

6月25日(日)は、NPO法人白神山地を守る会などが主催する「白神山地ブナ植樹フェスタ in 赤石川」の一環として、鱒ヶ沢町黒森地区の国有林内においてブナの植樹祭が開催され、津軽白神森林生態系保全センターからは所長が参加しました。

当日は、朝から雨模様の中、地元鱒ヶ沢高等学校の生徒や青森市の青森中央学院大学の学生ら約80人が参加し、白神山地を源流とする赤石川流域から採取し人の背丈ほどに育てたブナの苗木約80本を植樹しました。参加者は、各自がクワと苗木を手に持って、植樹箇所までスギ林の斜面を登りますが、雨でぬかるんだ土に足を取られ転ばないように注意しながら、植樹箇所によりやく到着です。そして、いよいよ植樹ですが、今度は植穴掘りで、周りから張り出す根に悪戦苦闘。それでも今自分たちが植えているブナが大きく育ってほしい、そう願いを込めるように、各自雨に打たれながら丁寧に苗木を植えています。



植樹箇所の様子



終了後の記念撮影

した。

あいにくの天気でしたが、学生達は植樹作業終了後、昼食に出たおにぎりとお味噌汁と暖かい鍋（お代わりOK）を食べてしっかりお腹を満たし、元気いっぱい午後白神遊山道の散策に向かいました。私も若い学生たちから元気もらい、本日植えたブナがまっすぐ大きく育つことを祈りながら帰路につきました。（高木）

深浦小学校で林業体験学習を実施しました

私たち津軽白神森林生態系保全センターは、白神山地を含めた地域の森林生態系や林業について理解を深めてもらうため、津軽森林管理署との共催で、鱒ヶ沢町と深浦町の小学校の4年生の児童を対象として、毎年、林業体験学習を実施しています。

6月28日（水）は、その第一弾として、深浦町立深浦小学校の14名の児童の皆さんと、十二湖青池周辺で、葉っぱ探しゲーム、丸太切り体験といった内容で実施しました。

7名ずつ2班に分かれた児童は、キョロロ駐車場から丸太切り体験の場所（青池広場）までの往復を、葉っぱ探しゲームをしながら歩いて行きます。葉や花の写真の入ったパネルを班ごとに渡され、見つけたものを赤いマジックで丸をつけていきます。職員に時折ヒントをもらいながらも、全部クリアできたときには、みんな笑顔で万歳！

丸太切り体験では、津軽森林管理署の職員の説明のあと、実際にノコギリを使ってスギや広葉樹の丸太を輪切りにします。慣れない作業でも児童たちは真剣に取り組みました。丸太を見事に切れたときの達成感と周囲からの拍手と歓声からか、はじめは遠慮がちだった児童たちも、果敢に2回目に挑戦するようになりました（なかには3回目に挑戦する児童も！）。

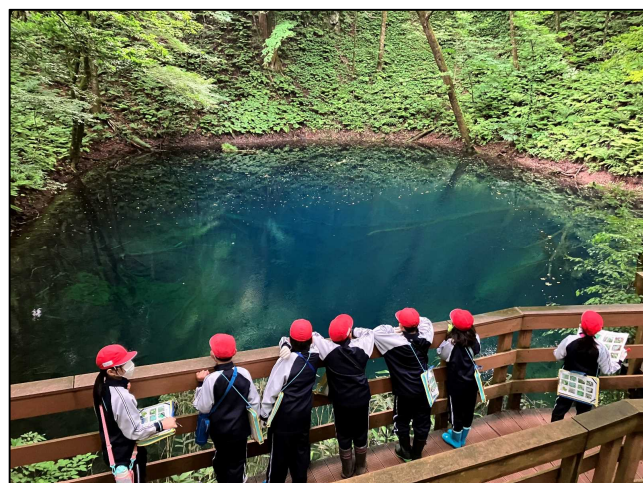
今回の林業体験学習は、森林生態系及び林業について理解を深めてもらう目的で開催したのですが、児童の皆さんが楽しみながら植物を探し、丸太を切る姿に、指導する私たちもとても楽しい時間をいただきました。



植物探し



丸太切り体験



青池を鑑賞中

この後も9月に他の小学校の林業体験学習を実施します。児童の皆さんが、楽しく、そして興味深く学習できる体験になるよう、スタッフ一同、引き続き頑張っていきます！
(赤澤)



最後に丸太を手に記念撮影

白神山地の自然を次世代へ



主催者、県知事の挨拶

白神山地世界自然遺産登録 30 周年記念オープニングセレモニーが、7月17日(月)弘前市のアートホテル弘前シティで開催され所長の高木が参加しました。

セレモニーには、青森県の姉妹都市である韓国済州特別自治道からの来賓をはじめ、青森県、弘前市、鱈ヶ沢町、深浦町、西目屋村などの周辺自治体や国の機関、記念行事を予定している関係団体など約70名が一堂に会して節目を祝いました。

白神山地の地元、津軽地方の伝統芸能である「津軽笛」の演奏を皮切りに、主催者である宮下宗一郎青森県知事の「世界の宝である白神山地の自然環境を守り、次世代へ引き継いで行くことは私たちの責務など」との挨拶からセレモニーははじまりました。その後も関係市町村長

の挨拶、来賓の祝辞など、セレモニーは盛況のうちに進み、白神山地応援隊の結成式では、白神山地世界自然遺産登録30周年を地域から盛り上げるため、民間団体から観光、商工、ガイド会、白神山地周辺の宿泊・飲食施設など多くの団体が集い(本セレモニーでは白神山地応援隊を構成する59団体のうち17団体が出席)、のぼり旗を掲げて、各種サービスやイベントの盛況を誓い合いました。

セレモニーは深浦町岩崎地区の郷土芸能「花上げ踊り」で締めくくられ、最後まで参加者の皆さんの熱い思いに包まれて終わりましたが、私たち津軽白神森林生態系保全センターも、この盛り上がりを一過性のものとせず、未永く白神山地の自然を守り、次世代に引き継げるよう取組を進めて行きます。(高木)



のぼり旗を掲げる様子